

写真で偲ぶ

永戸祐三さん ありがとう

協同労働で新しい社会を

歴史はいつか
真実にいたる



一般社団法人日本社会連帯機構「松元ヒロライブ+沖縄連帯トークセッション」(2025年5月25日)
7月16日逝去。ご冥福をお祈りいたします。



幼少期からずっと潜ってきた京丹後市久僧の海。若かりし頃の海パンは赤



甥・古村伸宏さん（現・日本労働者協同組合連合会理事長）と



お酒を呑むと「指圧を」と背中に乗るようせがむが、そのまま寝てしまうので、飽きてしまう孫



毎朝、伊根町の漁港へ買い出しに。潜って獲ったものと漁港で買い付けたものなどを調理。「食卓には温かい汁ものがないとタメ」が持論



毎晩大宴会。近所の方や親族、岩城雄作さん一家など労協の仲間も



正月の大宴会には次男・卓さんの友人たちも。宴が進むと成田誠埼玉事業本部長のギター演奏で大合唱



病で言葉が出にくくなり筆談。最期までメッセージを届けようとした



事業団対策



A photograph of a person in a white shirt and dark beret, holding a microphone, standing in front of a large banner with Chinese characters. The banner includes the words '見全行委' and '碎倒'.

[illegible]

小選挙区制、筑波大学法案に反対して決起を呼びかける全学連機関紙「祖国と学問のために」

全学連大会で基調報告（1974年、日比谷公会堂）映画「正義と真実の旗の下に」から

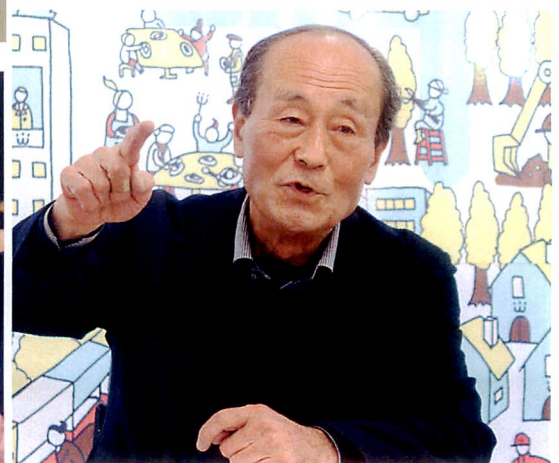




沖縄・辺野古基地建設反対（2017年）



東北復興へ緊急集会（料理も準備、2011年3月26日）

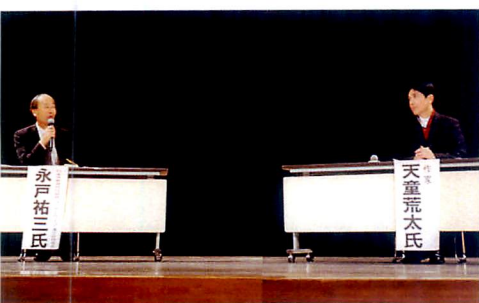


対談

菅原文太さんと対談（2014年11月5日）。3週間後の28日、文太さんは亡くなった



ノーベル経済学賞アマルティア・セン教授と（ケンブリッジ大学で、2000年11月労働新聞掲載年）



作家・天童荒太さんと



哲学者・斎藤幸平さんと



労協法に関わって衆議院法制局奥克彦さんと

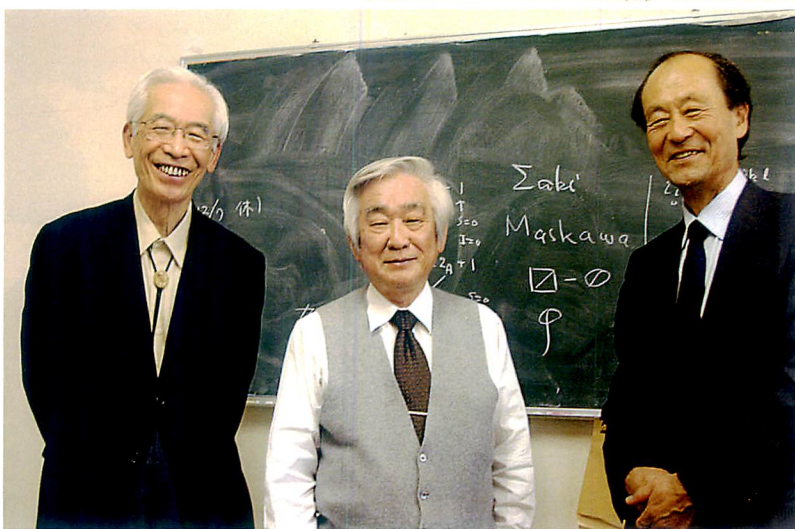


JA 全中・萬歳章会長と（2015年）

産直市場 グリーンファーム（長野・伊那）の小林史麿さんと



ノーベル物理学賞益川敏英教授と（京都産業大学で、左は池上惇京都大学名誉教授。2010年）



経済評論家内橋克人さんと（左は菅野正純さん、1997年）



あんなことこんなこと



日本国家公務員労働組合連合会副委員長、日本労協連副理事長を務めた田村守保さん(中央)らと

福島第一原発事故後、「原発セロ」を強く主張する小泉純一郎元首相らと



沖縄県知事選挙で翁長雄志さんと



上機嫌で駅ホームに座り込む。古谷直道元労協連理事長と



近年は農業再生に力。「滝瀬塾説明会(25年3月)で、塾長の元埼玉県議会議員・滝瀬副次さんらと

「みんなでつくってみんなで食べる田んぼ」のワーカーズコープ山口で



農業講座で(2024年)



誕生祝い(2018年)



ヘルパー講座で(左は岩城雄作センター事業団元理事長)



労働者協同組合法制定へ



篠原孝議員と



田村憲久議員と



連合・笹森清会長と(2002年、
右は菅野正純労協連理事長)



衆議院第一議員会館喫煙室で



後藤茂之議員(右から2人目)
らと

2020年12月4日、参議院
本会議の傍聴に向かう



永戸さんの遺影の前に
傍聴券2枚が



「労働者協同組合法」成立

2020年12月4日(金)

コロナ禍で、こじんまり
と祝賀会。梶屋敬悟議員
(中央) 山本幸司さんと



本紙ご購入を
「協同労働って？」
理念と実践の軌跡をぜひ
ICF・ワーカーズコープ

「協同労働の協同組合法」制定を 全党参加の「議員連盟」奮闘、地方議会決議も相次ぐ

自ら参画する新しい働き方が
日本を再生する大きな一歩に
議員連盟 坂口会長強い決意

市民議員 笹森会長も熱く

議員連盟役員

法制化を目指す横浜集会(2008年)
で話す永戸さん(後ろ姿、右)



新春交歓会(2019年)で猪鍋を用意。元議
員連盟会長の坂口力さんらと

日本労働者協同組合連合会理事長としての最後のメッセージ

「抵抗と創造——自治を高める」

一つひとつの取り組みに目一杯の愛情を

永戸祐三理事長

永戸祐三理事長による「総会のまとめ」(大要)です。総会あいさつ、センター事業団総代会でのあいさつの内容も加味しました。

「戦後総決算」の3年間に

「共謀罪法」の本質
「抵抗と創造——自治を高める」が、総会の中心的なテーマだと、私は考えた。

森友学園や加計学園の問題は、政治家が命令し、官僚が加担して、学園の経営者が国家の金を奪い取るという事件だ。こうした不正を覆い隠し、この社会をもっとよくしようとす運動を取り締まり、多くの国民が方向かつてくるかもしれないことへの対策を様々な打つ。これが「共謀罪法」の本質だと思う。

今、戦後75年を迎える2020年までに、天皇の退位と皇太子の即位、新元号制定、そして憲法の改正を東京オリンピックの狂騒の中で通し切ってしまうという絵柄が、権力の側から出されている。国家主権、国家主義、明治憲法体制への復古



「まとめ」を行う永戸理事長

という、憲法規範を覆し社会を破壊する日本会議や安倍政権の野望を、日本の人民がやすやすと許すとは思えない。しかしそれを許してしまうような土壤が市民の中に存在すること、しっかりと見ておかなければならぬ。

「全面的発展への移行期」

今日までの発展の要因
記念誌『ワークス35年の軌跡』が出来た。読み返しているが、我々の為してきたことは、一言で現わすと、「学び合い、支え合い、地域で共に発展し、『市民の時代』『地域の時代』を切り拓くことだった。

私たちは、事業団とは何か、労働、協同労働の協同組合とは何者か、という問いを常に自らに問いかけてきた。それは突き詰めていけば、人間とはなにか、労働、仕事をすることとどう関係しているのか、社会とはなにかを問うことでもあった。

それは、それぞれの地的な労働と、連帯・協同の取り組みから、新しい社会の創造を目指さなければいけない。

そして、運動・事業の発展の中で、よい仕事を深め、協同労働に行き着いた。協同労働を核とした協同組合は、「人々の生活と地域」を基礎として、自らの存在根拠と役割、任務を規定した。この任務を追い求め続けてきたからこそ、今日までの発展を実現できたのだと思う。

20世紀の社会運動は

ここで、20世紀の日本の社会運動は、既存の政治システムや市場システムへの対応の枠の中の運動だったと言えないか。だから、市場経済が膨らんでいるときには社会運動も

自然のエネルギーに満ち溢れた人たちが、工業国家、工業都市づくりに動員された。そこで生まれた3代目はコンクリートの建物に住み、学校に通うにも土壌を踏みしめることはない。この生活が異常でなくて何だろうか。これが本当の国、本当の社会と言えるのか。真に対決する運動とは

私たちは、良心と良識をかけて、社会の新しい流れ、政治の新しい流れに向かって運動を大きく起こさなければいけない。まともな仕事をにつくりださねばならない。

農業、林業、漁業も、子育て関連や高齢者の人生最後の輝きをつくり支える仕事も、市民自身がつくることとなった。それが社会変革であり、革命だと思ふ。

今、保育士が足りない状況が続いている。その仕事に誇りを持っていないような状況をつくってにおいて、給料を1万円、2万円上げるから来なさいと。こんな人間を馬鹿にした話はない。



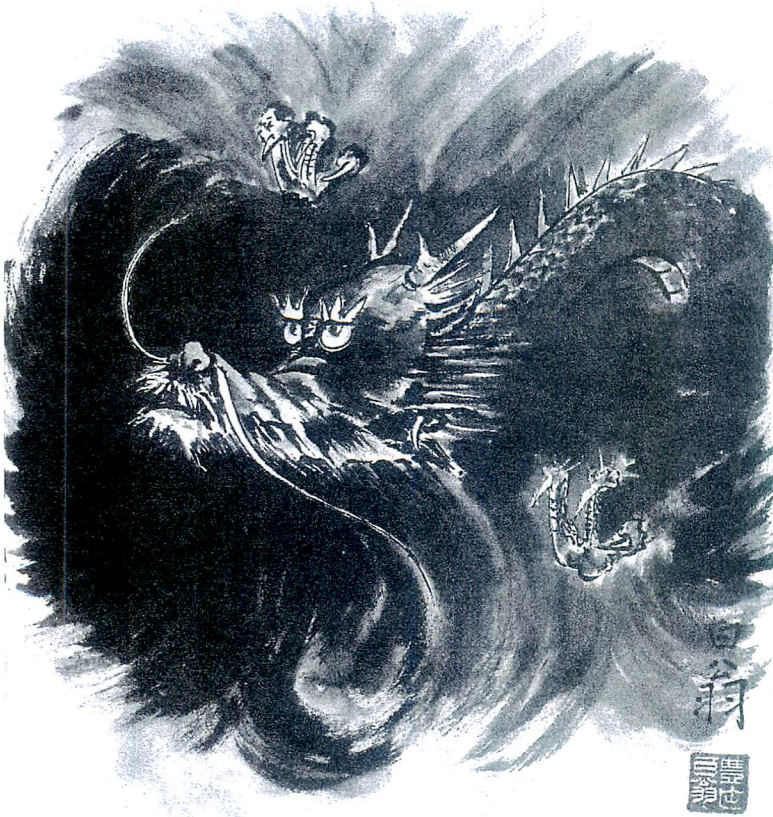
名誉理事となり、センター事業団総代会で挨拶する永戸さん

社会全体を大きな活力で包んでいく。この取り組みは、急遽に全国的に発展していくだろう。

そのもっとも大きな根拠は、企業や雇用関係の中にじり込められていた「生活の軸」が、地域に移行し始めているからだ。

生活の軸が企業と雇用関係の中に閉塞していたのでは、人間らしい生活はあり得ない。協同労働法ができれば、派遣でいつ切られるかわからない労働を強いられるより、自分たちで自分たちの命を燃やせる協同労働を選択しようとなるだろう。

人間への信頼の力からこつたことを前提として、ワークス35年の軌跡の中心に、このことを握らなければいけないのではないかと、人は、孤立するとどんな力も出せない。人を信じられる環境の中にあって、人との深い関係が結ばれ、協同と連帯の中にあれば、限りなく力を出せるのだ。



豊田 尚三(センター事業団・みさと事業所)

人類の大道を行け

暗黒の世界の中で
未来への光明を見いだすことは、つらいこと
混じりの社会の中に
新しい社会への出口を見いだすことも
やさしいことではない
人類は、いま、ここまできつてきた
絶望も、悔しさも、想い半ばで倒れた人の
意志もくくめて
人類は今日の文明をつくりあげてきた
人間として、同じ人間がつくりだしたとは思えない
おぞましい遺産を前に
希望を失い、背筋にはりつく恐怖を多くの人はもつ
核戦争——人類絶滅の危機
恐怖からの解放
絶望からの脱却
そして社会進歩と全人類の幸福へ
一歩をふみだしたい
眼を激し、意志をこめてシッパと開け
悠久の未来を見つめよ
心を限りなく人の生きざまに
生あるものに向け
愛をこめよ
夢と熱情とそして強じんな意志と、
それが21世紀への人類の希望をつくりだす
鍵よ翔べ！
労働者協同組合の船をこぎださん
その帆に新しい時代への意志をこめて

労協新聞新年号には、編集部からの求めに応じてペンネームで詩を書いた

全日自労大会での発言。
「くもりガラスを手でふいて明日が見えるか」と挑発したと批判もされた

全日自労大会での発言。
「くもりガラスを手でふいて明日が見えるか」と挑発したと批判もされた

「くもりガラスを手でふいて明日が見えるか」と挑発したと批判もされた



雇用失業保障闘争の新しい拠点をつくらせよう

永戸第二組織部長の発言

永戸第二組織部長の発言

全日自労大会での発言。
「くもりガラスを手でふいて明日が見えるか」と挑発したと批判もされた

仲間たちの思い出 根本を問い、熱くやさしく、背中を押してくれた

センター事業団理事の「協同労働がつくる新しい社会」の感想文に書かれていた「永戸さんの思い出」を紹介。

自主自立を貫くこと
九州沖縄 牛草賢一
たくさんの永戸さんの言葉の中で「納得のいかない事とは戦う事」「組合員（仲間）の変化成長を信じ抜く事」「誰かの責任にするのではなく、自主自立を貫くこと」が心に残っており、指針となっている。

りにお越しいただいた際、永戸さんは私たちに若手一人ひとりの話に丁寧な耳を傾け、現場での悩みや思いを聞いてくれ、とても嬉しかった。「若手が頑張らなければいけない。次は誰が仕事を獲得するんだ！」と熱い言葉で激励してくれた。

澤君と奥さんが来て、ギターとフルートでみんなで谷村新司の昂と美空ひばりの川の流れるようにを歌ったら、永戸さんがぼろぼろ泣いていたのは今でも忘れられない。

もあった。一人ひとりの主体性を引き出すことが大切であるとともに、「己が何を為すのか」というトップリーダーとしての明確な指針・思い・使命・生き方を示したことが「独裁的」という言葉にもつながっている。

という社会の根底で悩み苦しむ若者を直視する現場に赴任、協同労働と若者支援とが直結した経験は全ての基になっている。

に入ってくる方たちを迎え入れ、終了時にも会場の出口で立たれて握手をしてくださった方が永戸さんでした。会議の中のお話では恐れをなすのに、ニコニコして握手してくださいと永戸さんにとっても恐縮したのを覚えています。

に行きましたが、「ワインを買ってこい、赤と白と一本ずつ」と。おでんとキムチ鍋も大量に作っていてくれ、焼酎や日本酒も飲んで、いつもの永戸さんだ、復帰も近いのではないかと安心する場面でした。

自立性を高め、まちづくりへ向かえていたかもしれない！これからは「社会連帯経営」を軸として、苦しみや苦悩から自分達の生きる場、働く場を導いていつて欲しい」という強いメッセージを伝えられた事を鮮明に記憶している。

優しき湧き出る顔で

九州沖縄 金山ふみ

ライターを借りた際

山陰山陽 牧野仁嗣

人・達人サミット桶川

北本」での活動の中で

20年前、就職超氷河期で連戦連敗の就職活動に自暴自棄になる

中、タイミングよく誘われた協同労働という

「翔け！」「翔べ！」

北東北 坂本典孝

最初に全国異動を命じられた時やポイントになる場面です必ずと言っていいほど「翔け！」「翔べ！」と言われた。その言葉が私自身の背中を押す、どれだけ意味の深い言葉であつたか。

（以下、東北合同拡大エリアマネージャー会議レポートから）

社会連帯経営を軸に

分散会では別人のように石巻地福・ひばりんく石巻一條嶋

「働くとは何か・なぜ働くのか、どう生きていくのか」を、常に問い、様々な場面でエールを投げかけてくださるときの真顔ながら優しさが湧き出るような穏やかな顔で、「やらなくては」…から、「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

判に転嫁する日々を過ごしていた頃、ある会議の喫煙所で近くにいた永戸さんにライターを借りた際、「協同つすね」と冗談めかして感謝を伝えたところ、穏やかに笑ってくれた。

もつとはつきり話せ」と注意を受けた。実行委員会では常に熱く語り、言い合いになることもありながら、本音で向き合っていく。

期で連戦連敗の就職活動に自暴自棄になる中、タイミングよく誘われた協同労働という世界に事務局員候補として飛び込む際、永戸さんに最終面接で当時世間を賑わせていた郵政民営化選挙について問われた。社会の何たるかも知らない未熟者に滾々と民営化の悪影響とその根本を説かれ、「物事の根本に接して自ら捉え行動できる人間になれ」と言われ、永戸さんとの会話で「独裁的に決めることも必要」と話された場

その後、若者自立塾

12年から東関東の社会連帯理事となり、常に主体性と主人公であることの重要性を問われ、地域に必要な仕事を起こす、そこには社会連帯活動が両輪で必要なことを学び続けてきました。

（一度本気で怒鳴られたときは怖かった）。

笑顔で過去の自分の経験を、私の正面に座って話してくれた時、「あなたもそう思うだろう」と言葉を掛けてくれ、「はい、そう思います」と答えた。優しい眼差しで、一人一人に語り掛けてくれていたことを鮮明に覚えている。いつもの壇上で叱咤激励を鼓舞する永戸さんとは別人のようだった。

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

「一緒にやるんだ！前に進んだ！」に、交換していく心の支えだったように思います。

ぼろぼろ泣く永戸さん

己が何を為すのか

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾

その後、若者自立塾



おでんとキムチ鍋大量

その後、若者自立塾

韓国の友人から

あなたは仲間たちとともに日本の労働者協同組合運動の基礎を築

私は今日、人生の多くを失業者たちと労働者たちの協同労働運動のために献身されたあなたを記憶し、深い感謝と哀悼の気持ちをお伝えします。あなたは私に一人の献身がどのように共同体を起し、また世代と国境を越えて希望の種となるのかを自ら見せてくれた方でした。

永戸祐三さま



キム・ホンイルさん(右)が労協連を初訪問したのは1996年。永戸さんは「長く深いおつきあいを」と挨拶。その通りに。(写真は2020年)

愛と連帯の種は豊かな実を

き、日本労働者協同組合連合会の眩しい成長の中心に立っていらっしやいました。失業と貧困、社会的排除の中で道に迷った人々に、あなたはいつも「協同の力でともに立ち上がる事ができる」という信頼を植え付けてくれました。協同の精神が単なるスローガンや制度ではなく、人を再び生かす道だということを、あなたの人生を通じて絶えず証言しました。

特に、韓国の労働運動と自活運動に従事する活動家たちに見せてくださった友情と連帯は、私と韓国の同僚たちの記憶の中に深く刻まれています。国境を越えて互いに学び助け合うことは決して容易な道ではありませんでしたが、あなたはいつも心を開いて韓国の現場を直接訪ねて来て、互いに学ぼうとし、韓国の困難と課題を自分の仕事のように傾聴し、ともに討議しました。私と同僚たちはあなたが見せてくれた姿から同志的連帯の真の意味を学びました。

私にとってあなたは、弱い人々の傍らに立つために相手と対等に対話する術を知っていて、共同体が前に進むべき時は誰よりも明確なビジョンと信念を示した方でした。今日、私にはみなさんと一緒にあなたを偲ぶ時間をともにできない残念さと申し訳ない気持ち

溢れています。その想いを古村理事長と組合員の同志たち、そしてご遺族のみなさまにお伝えしたいです。そして、私にとって協同労働運動の大きな先輩であり、とても心暖かかった友人をこうして見送る深い悲しみもお伝えします。永戸祐三さん、あなたが人生をとおして私に送ってくださったすべての贈り物に心から感謝します。あなたが撒いてくださった愛と連帯の種は、これからも韓国と日本、そしてアジアのあちこちで育ち、より豊かな実を結ぶでしょう。どうぞごゆっくりお休みください。私と韓国の友人たちはあなたを長く記憶するでしょう。

韓国社会投資支援財団理事長
キム・ホンイル

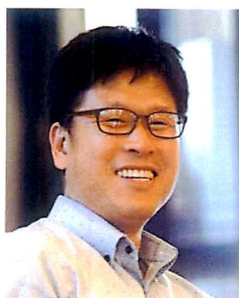


大切な大切な物語として

「おい、ちょっとあの歌を歌ってくれないか」

韓国の民主化運動を象徴する歌『あなたのための行進曲』

私よりその歌が好きだった方として、私はあなたのことを記憶しています。



「ソンさん、世界の労働者協同組合運動は、変わる必要があるか?」
歳月は流れ時代は変わっても、守るべき約束を胸に抱いて生きてこられた方として、私はあなたを記憶します。

「さあ、酒でも一杯やろっじゃないか。ハハハ」

お会いするといつも明るい笑顔で気さくにあなたかく私を歓迎してくれた方として、私はあなたを記憶します。

ある人は、人生とは自分自身の物語を書き綴る一編の小説だと言いました。嬉しい話は、傷ついた人々を慰めた。

福岡での全国協同集会
(2014年)には韓国から70人が参加

たり、挫折した人々には再び立ち上がるための力を芽生えさせたりします。あなたのお話は、海の向こうの異国の地にいた私にとっても、人生の方向を見失って躊躇していた時に行くべき道を照らしてくれた星でした。

歴史というのは、過去の物語が伝承され、現在で受け継がれながら、未来につなげるものです。

あなたが見せてくれた他者への愛と共同体・大衆運動にその身を捧げた物語は、多くの人々に語り継がれ、新しい未来につなげていくでしょう。

「ソンさん、労働者協同組合運動についてどう思う?」

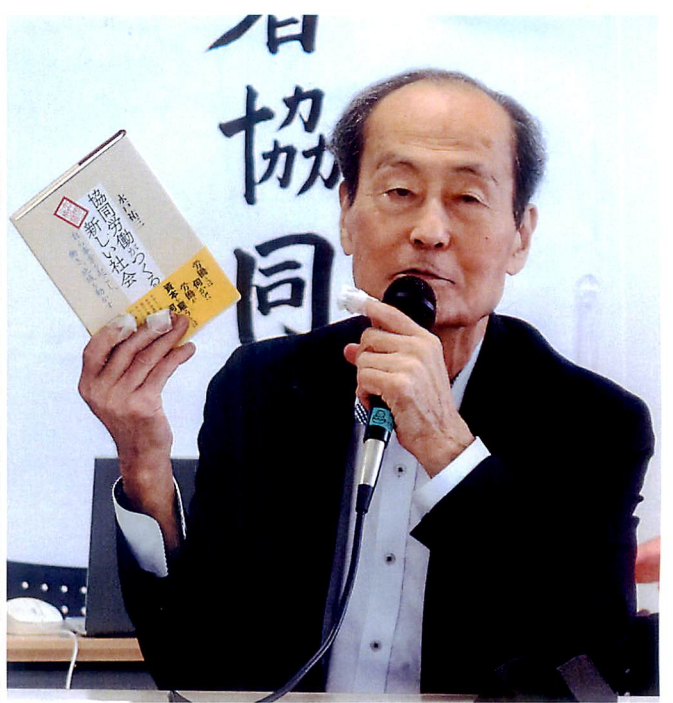
今でも私にそう話しかけ、あの明るい笑顔で笑いかけてくれそうあなたのことを、これからは大切な大切な物語として私の心の中に刻む時がきました。人生は有限で、誰もがこの世を去ることが道理ですが、あなたが生き抜き、書き綴ってきた人生の物語は、私の心の中で永遠に記憶されるでしょう。

どうぞ安らかに眠ってください。あなたのことを最高の友人として記憶します。たくさんあなたの愛をあなたへ

韓国であなたを尊敬する
韓国労働者協同組合連合会
初代会長 ソン・インチャン

問題② 旬報社主催「協同労働がつくる新しい社会」発刊記念シンポで、佐高信さんはこう発言。「一回しか会っていないが意気投合した。もう一度話したかった。とくに『〇〇』ということについて」と。〇〇とは何でしょう。労協新聞 10 月 5 日号に答えが。

もうちょっとの永戸さ
んを知る6つの問題



問題①「カバーを取ると、○○○○○○が、それだけでも価値がある」とセンター事業団総代会（6月15日）で発言。○○○○○○とは？

「従属労働」を前提にした「労働法」の中で労働者の権利擁護をめざして出版活動をしてきた者として、永戸さんが追い求め、実現してきた「労働者が主体となる協同労働」は驚きでした。永戸さんの思いが込められた本書をより多くの働く人たちに届けたいと思います。

旬報社代表取締役社長 木内洋育



問題③ 「歴史はいつか真実にいたる」。表紙のこの言葉は、永戸さんの好きな言葉で、労協連〇〇周年の記念式典では、扇子に。何周年の記念品でしょうか。



問題⑤ 永戸さんは何を持っているのでしょうか。よ～く見てください。魚を食べていると、「こんなものが入っていた」と。

問題④ 下は、永戸さんの推敲を重ねたノートの一部。解読してください。

下に、一応解読したものをのせました。



問題⑥ 永戸さんが企画した映画「医師中村哲の仕事・働くということ」は、全国で〇万人が鑑賞しました。

2025 年 12 月 13 日発行

写真は次の方々などの協力を得ました。西山正浩（表紙）の他、飯沼潤子、岩城亮平、氏家豊、五味明憲、友岡有希、永戸亮、森康行、労協新聞編集部。編集は松沢常夫。

答え ①労協法第
一条 ②自前 ③
30 ④別項 ⑤
釣針 ⑥4

[illegible]

▷今、自分はどのような存在の姿なのだろうか。そして、これからどのような存在になっていくのだろう。そして、なるべき存在、いや、協同労働運動に参加することによって、どのような存在になっていかなければならないのか。どのような存在であるべきなのかと考えはじめる時がある。あるべき存在（主体性、能動性への自己変革の道）のためには何が必要なのか、常に自らに問いかけ続けることとなっていく。